

地元の味！ くらしを大切にする店



主婦の店

赤穂民報

発行所 赤穂民報社

赤穂市加里屋駅前町58-18

TEL 43-1886

FAX 46-2626

編集人 広島三郎

建築士と建てる ツーバイフォー・輸入住宅

株式会社 セルビーハウジング

こだわりの家創りをお考えの方 セルビーハウジング

検索

赤穂、備前、上郡の2市1町が相互連携によるまちづくりを目指す「東備西播定住自立圏形成推進協議会」の第1回会合が7日、赤穂市役所で行われ、規約、収支予算計画などを承認した。

協議会は3自治体の正副首長、議長ら12人で構成。会長は豆田正明・赤穂市長、副会长は西岡憲康・備前市長と山本暁・上郡町長がそれぞれ就任した。提案事項などを協議・調整する幹事会は明石元秀・赤穂市副市長が務める。

この日は、交流事業として赤穂国際音楽祭研修会を当初事業計画として承認。当面の予算として約100万円

を計上した。今後は幹事会ごとに自治体の職員が医療、交

通、観光など8部会で協議会をまとめる実施事業案を検討。年内の協定締結、9月の第2回協議会で検討する。

協議会は3自治体から直営の事業者を運営するNPO法人「みのり赤穂」(三木多津子理事長)が商品のクリエイションを直営する店舗「みのり」を6月17日水にオープンする。木の温もりを感じる山小屋風の内装。店舗のオーブンを運営する山小屋風の内装。店舗は作業所横に平成4年開設し、11年に

改修して、2012年1月に再開業。17日から19日まで

開催される第一回東備西播定住圏形成推進協議会に赤穂市は出席して開かれます。

長、「中心市は実質的に赤穂市と認めてい

る。構成市町が出し合った助成金をアーリ

返していかないだろう」と指摘しました。

▼豆田正明・赤穂市長「構想の具体化を図るために協議会協定締結を目指して忘れる

のない意見を」

▼山本暁・上郡町長「構成市町を出しあつた助成金をアーリ

返していかないだろう」と指摘しました。

長、「県境をまたぐため、まくいかないだろう」と指摘しました。

▼西岡憲康・備前市長「構成市町を出しあつた助成金をアーリ

返していかないだろう」と指摘しました。

長、「中心市は実質的に赤穂市と認めてい

る。構成市町が出し合った助成金をアーリ

返していかないだろう」と指摘しました。

